

# 関東中学校軟式野球大会 大会特別規定

## 【競技を行うにあたって】

1. 2015年公認野球規則並びに2015年（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携、及び本規定による。
2. 使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認球とする。
3. 使用器具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
4. 正式試合は、通常7イニングから成る。5回以降7点差以上の得点差があった場合コールドゲームも適用する。また、試合は5回で成立するが、降雨、その他の事情で試合続行が不可能になった場合は、特別継続試合とする。なお、試合成立後の降雨等によるコールドゲームの得点の扱いは、全て均等回の得点とする。

### 〔特別継続試合の再開について〕

- (1) もとの試合の中断された箇所から再開する。
  - (2) 両チームの出場者と打撃順は試合が中断された時と全く同一でなければならない。ただし、規則によって認められる交代は許される。
  - (3) もとの中断された試合に出場して、他のプレーヤーと交代し、その試合から退いたプレーヤーは再開される試合に出場することはできない。
  - (4) 再開の際は、試合開始と同じように整列、あいさつを行う。
  - (5) グラウンドを変えて再開するとき、および日にちを変えて行う場合は原則としてシートノックを行う。
5. 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決着しない場合は次のような特別延長戦を行う。

### ＜特別延長戦＞

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。

6. 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
7. 雨天時の場合でも試合を行う時がある。また、午前中見合わせて午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意する。なお、当日の試合が不可能な場合には大会本部から連絡をする。
8. ベンチは組合せの番号の若い方を1塁側とする。
9. 用具・装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
10. 本大会では、施設使用上および安全面から、球場外でのスパイク着用を禁止する。
11. 選手の頭髪・身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。

## 【開会式について】

12. 選手集合場所では、優勝旗（代表旗）を完全にセットし、優勝旗を先頭に背の高い順に3列で行進する。なお、優勝旗は、主将が持つこととする。
13. 開会式では、ユニフォーム並びにスパイクで入場行進から参加する。

## 【試合開始前】

14. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前または前試合4イニング終了時までには球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。

15. 天候等の悪化が予想される場合または試合開始のための態勢が整っているときは、試合開始予定時刻前でも試合を開始することがある。なお、各球場の開門時間は、試合開始予定時刻の1時間30分前とする。練習はベンチ前および外野に限り行うことができるが、スパイクの使用を禁止する。また、バッティング練習は禁止とする。練習に参加できるのは、登録選手のみとし、補助員は練習に参加できない。登録選手は、試合用ユニフォームで行う。
16. メンバー用紙交換及び攻守決定は、第1試合は試合開始予定時刻の40分前、第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は指定されたメンバー用紙（1通）を持参し、競技部担当役員と担当審判員とで攻守決定、注意事項の確認を行う。
17. ダブルゲームの場合、ゲーム終了後から次の試合開始までを45分とし、その開始時刻の20分前をメンバー交換とする。開始時刻の決定は大会本部が行い連絡する。
18. 第2試合以降は試合開始時刻前でも、前の試合が終了した後30分を目安に次の試合を開始する。
19. シートノックについては以下の通りとする。
  - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
  - (2) 時間は、通告時より7分以内とする。ただし、状況によっては短縮または省略することもある。
  - (3) 後攻のチームが先に行く。
  - (4) 監督・コーチ・登録選手の他に5名の補助員をつけて行うことができる。ただし、補助員は自校のユニフォーム（白無地可）およびヘルメットを着用すること。
  - (5) ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
  - (6) 捕手はプロテクター、レガース、ヘルメットを着用する。
20. 前の試合が終了次第シートノックを行うので、挨拶終了後にグラウンドに入り、外野側ベンチ横に用具を置きキャッチボールを行ってもよい。なお、シートノックが開始された際は、ベンチ内で待機する。

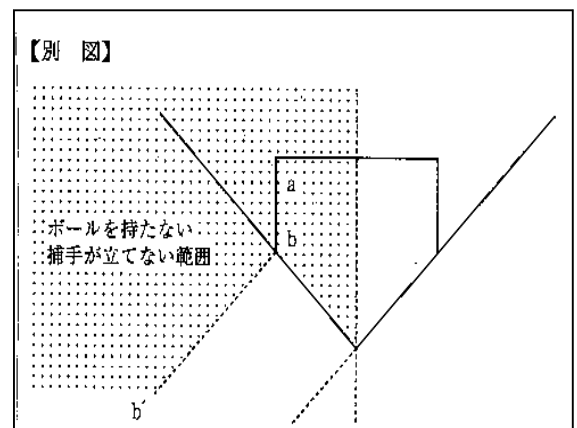
### 【試合中】

21. 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。
22. 規則適用上の疑義の申し出ができるのは、監督と当該選手とする。この場合は要旨を端的に述べ試合進行や大会運営に支障をきたさぬよう留意すること。
23. ベンチ内でのメガホン使用は、監督に限る。
24. 規則3.03原注〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は本大会では適用しない。  
〔規則適用上の解釈〕  
中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。
25. 投手の投球制限について、「投手の投球制限については、1日7イニングまでとする。」は本大会では適用しない。
26. 交代して退いた選手も、ウォーミングアップの相手やベースコーチにつくこと、伝令をすることは許される。(3.03注関連)
27. 投手の準備投球は、初回と交代時7球以内・他3球以内とし、時間は1分以内とする。ただし、状況により審判の判断で考慮することもある。
28. 突発事故が起きて臨時代走を用いたい場合は、監督が球審に申し出る。審判団が必要と認めた場合は許可する。臨時代走は、投手と捕手を除く打者前位の者とする。
29. ブルペンでの投球練習、交代の野手のキャッチボールなどの必要以外の選手はベンチから出ない。ただし、ベンチ入れ替わりの間、シートノックの準備ができるまでの間、試合途中のグラウンド整備の間はベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動を認める。
30. 試合中のグラウンドでは、打席に入る打者と次打者席内の者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、次打者は投手が投球動作に入ったら低い姿勢をとること。
31. 本塁打を打った打者走者にランナーコーチが握手を求めたり、ベンチにいる選手が握手を求めたためにグラウンドに出てはいけない。

32. ブルペンでの投球練習は、攻守決定後、大会役員の誘導で先発バッテリーのみ行うことができる。室内練習場がある場合には、それを待たなくても練習ができる。
33. 危険防止のため、次のことを徹底する。
- (1) マスコットバット・バットリング・鉄棒等を球場に持ち込むことを禁止する。
  - (2) 足を上げてのスライディングは禁止し、実際に妨害になった場合は走者をアウトとする。
  - (3) 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード付きのマスク・ファウルカップを着用する。投球練習を受ける控えの捕手についても同様とする。
  - (4) 打者・走者・次打者・ベースコーチは両耳付きヘルメットを着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
  - (5) 規則7.06(a)【付記】(捕手のブロック)の適用について、中学校野球では、『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。

[規則適用上の解釈]

- ① 走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できた、と判断できる場合である。
- ② 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に『アウト』のコールをした場合でも、改めて「オブストラクション」の宣告をしなす。
- ③ 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して嚴重注意すること。
- ④ ボールを保持する前の立つ位置は次の通りとする。
  - ・ ホームベースの中央線より右側に立ち、ベースの左半分走者に見えるようにすること。
  - ・ 捕手がホームベースより後方に位置するときでもホームベースと3・本間のラインが重なる3塁よりの接点(別図b-b')から3塁方向に出てはいけない。
- ⑤ 捕球してからの動き
  - ・ ボールを保持しているときは塁線上に移動してタッグをしてもよい。



34. 試合進行や大会運営の円滑化のため次のことに留意する。
- (1) 無用なタイムをとることを慎む。
  - (2) 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。
  - (3) 攻守交代は全力疾走で行う。
  - (4) 守備のボール回しは定位置付近で行う。試合進行上禁止することがある。
  - (5) 打者はむやみに打者席を外さず、サインは打者席内から見る。
  - (6) 先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
  - (7) 投手の準備投球中やタイム中などに、打者・次打者以外の選手の素振りは認めない。
35. 監督が、投手のところへ行く回数の制限(8.06関連)
- (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回行くことができる。
  - (2) 監督が、同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。
36. 守備側のタイムの回数制限
- 捕手または内野手が、1試合に投手の所に行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回行くことができる。野手(捕手も含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1度として数える。逆の場合も同様とする。投手交代の場合は、監督のみ回数に含まない。
37. 攻撃側のタイムの回数制限
- 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回とする。

38. 守備側のタイム中に、攻撃に関する指示を監督がベンチを出て(または、選手を集めて)行った場合は、守備側のタイムと攻撃側のタイムの双方1度として数える。
39. 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
40. ファウルボールは、すべて係員が回収を行う。

#### 【試合後】

41. 各チームの監督は、試合終了後30分以内に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。
42. 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席へのあいさつは認める。

#### 【その他】

43. テーピングをする場合は露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手が手首にリストバンド、サポーターなどを使用することを禁止する。なお、負傷で手首に包帯等を巻く必要があるときは、大会本部の承認が必要である。
44. 応援団は次の事を守って応援すること。なお、応援団については監督が責任をもって指導すること。
- (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
  - (2) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことを禁止する。
  - (3) 応援席を散らかさない。ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
  - (4) 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。
  - (5) スタンドや客席にテントやパラソルを張ることはいけない。
45. 1チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む）とする。この他に教員を2名追加することができる。外部指導者（コーチ）が入る場合は1名とし、計21名以内とする。ただし、校長はこれ以外にベンチにはいることができる。
46. 監督・コーチ（外部コーチ）等の服装については次の通りとする。
- (1) 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番の背番号を付ける。コーチは背番号をつけない。選手と同じ色のスパイク（アップシューズも可）を履くこと。
  - (2) その他に教員がベンチに入る場合は平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮する。
  - (3) サングラスは使用しない。
47. 選手の服装等については、次の通りとする。
- (1) 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が1番～18番の続き番号であること。
  - (2) 手袋については白または黒一色のものとする。リストガードは禁止する。ただし、ケガ等の医療目的の場合は、攻守決定時に大会本部に申し出て審判団の許可を得ること。
  - (3) 選手のスパイクは黒一色とする。
  - (4) サングラス着用は、天候状態等によりプレイに支障が出る場合、大会本部に申し出る。ただし、ミラーレンズ（反射式）は使用を禁止する。
48. 試合のスピードアップ・マナーアップ・フェアプレイについては、各チームで責任を持って指導すること。

※波線部が昨年度との変更点です。